

水稻の生育情報

「コシヒカリ」の幼穂形成が始まりました。間断かん水を行いましょう。

概況 (7月1日 水稻定点ほ場調査から)

平年と比較して、本年の6月下旬の平均気温は高く、日照時間は長く推移しました(図)。

水稻の生育は平年と比較して、本年の全調査地点の草丈は高く、茎数が五霞町を除いて少なく、葉色は平年並み～濃くなっています。なお、出穂期は平年より遅くなる見込みです(表)。

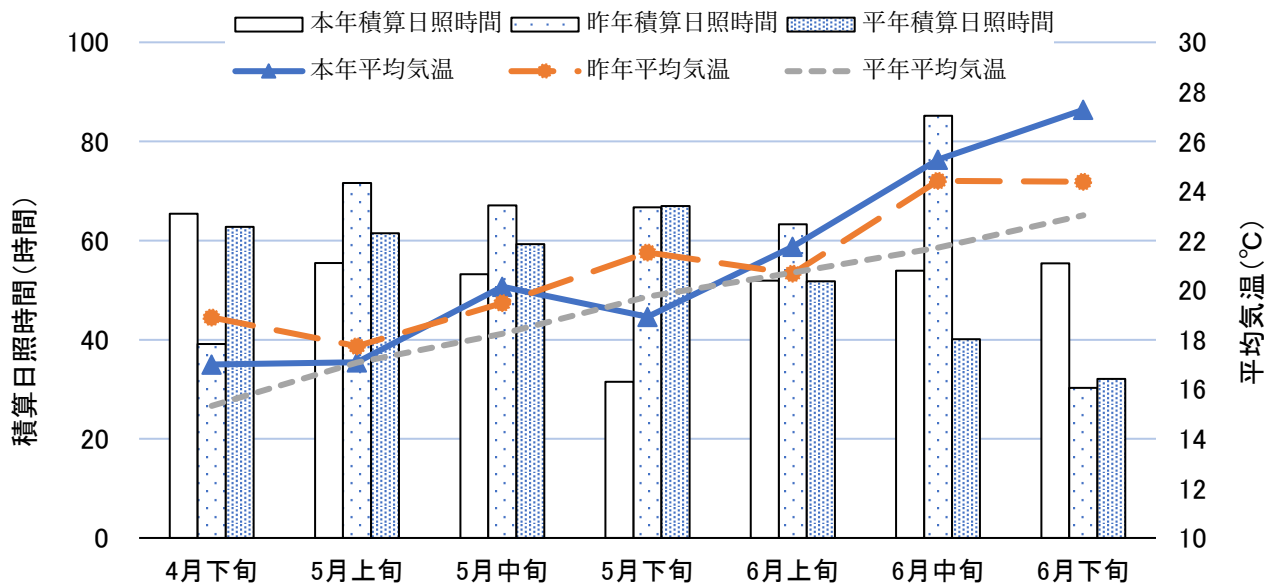


図 4月下旬から6月下旬の旬別平均気温と日照時間(古河アメダス) (注) 平年値は1991年～2020年の平均値

表 定点ほ場の生育調査結果 (令和7年7月1日現在)

品種	調査地点	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉色 葉色板	幼穂長 mm	出穂期予測 ※2
						(本/株)	(本/m ²)			
コシヒカリ	坂東市	5/2	4.6	16.7	85.7 (75.1)	29	488 (553)	4.2 (3.7)	4.3	7/27 (7/20)
	境町	4/30	4.5	15.2	83.9 (78.5)	30	458 (557)	3.4 (3.7)	3.0	7/28 (7/24)
	五霞町	5/8	4.8	15.9	79.8 (70.8)	33	521 (516)	3.5 (3.6)	1.2	8/1 (7/29)
	古河市	5/14	4.5	15.9	75.3 (68.3)	30	473 (479)	3.5 (3.6)	1.4	7/31 (7/26)

※()内は過去5年間の平均値。

※2 出穂期は、気温が平年並みに推移したときの予測値。

今後の栽培管理

5月中旬までに移植したほ場では、幼穂形成が始まっています。
中干しを終了し、3～4日間隔で入水と落水を繰り返す「間断かん水」を実施しましょう。

病害虫防除(斑点米カメムシ類対策)

水田への斑点米カメムシ類の飛来を防ぐために、畦畔除草を行いましょう。ただし、除草後の本田への飛び込みを避けるために水稻の出穂14日前頃までに除草を終わらせましょう。